

# @MyLife vol.1

## あま市で実現する、私の生き方

「女性が活躍できる」といわれる今の時代。でも、自己実現と家事や育児とのバランスに悩む人も少なくないでしょう。この情報誌では、あま市で活躍する女性たちにお話を聞きました。彼女たちの物語をヒントに、あま市で素敵な生き方を見つけてみませんか。



### はじめる

子育て支援 NPO 法人代表

### つなぐ

あまえん坊のお母さん



### 起こす

女性起業家



高校生と大人たち、あま市で暮らす女性たちが取材しました！

この情報誌の取材をして記事を書いたのは 9 人の市民記者のみなさん。五条高校、美和高校に通う高校生とあま市在住の大人たちが、女性目線でお話を聞きました。取材前にはプロの記者による講座も実施。女性たちが感じた等身大の声で作られた情報誌です。



# 笑顔のママたちと一緒に

かわはら ふみこ

川原 史子さん

## NPO 法人ママ・ぶらすの活動

ママ・ぶらすは、子育て中の母親に「第三の選択肢」を提供する活動です。自分自身、母親になった時に育児だけの生活に不安を感じました。そこで「子どもを預けて働く」「家庭で育児に専念する」とは違う、「第三の選択肢」があってもいいのではと考えました。「第三の選択肢」とは、母親が育児を優先させながらも、趣味や学習やボランティア活動などを通じて社会と関わり、自分らしくいられる時間を保ち続けるライフスタイルです。

## キッズ防犯プロジェクト

九州で起きた誘拐事件をきっかけに、キッズ防犯プロジェクトを始めました。テレビでこのニュースを知った時、現場と自宅周辺が似ていたこともあって、犯罪が他人事ではないと感じたんです。キッズ防犯プロジェクトでは、親子で正しい防犯知識を学び、ご家族や地域で子どもを守る環境をつくる取組をしています。あま市では、小学3年生向けに体験型の防犯授業をしたり、大人向けのワークショップを開いたりしています。

## 信頼されること

私が大切にしているのは、信頼され続けること。ママ・ぶらすは、現在 70 社以上の賛助会員の企業様、3,400 名の会員様とでつくり上げています。他にもNPO法人や企業の方々のご協力で成り立っている活動です。約束をきちんと守ること、競うより力を合わせることを心がけています。考え方や価値観の違いも認め合いながら活動していきたいです。実は私、ちょっとそそっかしいところもあって。いつもサポートしてくれる仲間には、たくさん感謝しています。

【プロフィール】NPO 法人ママ・ぶらす理事長。一児の母。ママ・ぶらすは、平成 28 年度に内閣府「子供と家族・若者応援団表彰」制度で特命担当大臣表彰を受賞。子育て中の女性に「第三の選択肢」を提案している。

撮影場所／あま市菟目寺総合体育館

市民記者／五条高校 林初音、堀晴菜、三好里奈

## 市民記者のヒトコト

川原さんの素敵な笑顔が印象的でした。笑顔のお陰で私たちの緊張もほぐれました。



元気の  
ワンポイント

いつでも前を向いて歩き続ける！家族を大事に！

## あまえん坊のお母さん。あまえん坊とともに

あま市に合併した時、「新しいまちを盛り上げよう！」と中学時代の同級生に声をかけられました。もともと絵を描いたり、物を作ったりするのが大好きで。試行錯誤の上に「あまえん坊」が生まれました。今では、市の公認キャラクターになり、お祭りやイベントと一緒に出かけしています。工芸高校に通っていた頃から、友達と文化祭の準備をするのが楽しくて。「やるからには楽しむ！」という思いは市民活動をしている今も同じです。

## 細かいことに気付いて「つなぐ」のが得意

インテリアコーディネーターの仕事にも市民活動にも、色々な考えの人が関わっています。私はその人達の間をつなぐパイプ役をしてる事が多いのかな。例えば、おうちを建てる時の大工さんと施主さんの間だったり、市民活動では困っている人と市役所の間をつないだり。人と人とのつながりをデザインするのが得意なのかもしれません。自分の強みを考えた結果が、仕事にも市民活動にも生きていますね。

## 長年の夢、今一番のワクワクは学習支援

ひとり親家庭の子ども向けに学習支援がしたいと、ずっと思っていました。実は、その夢が今年叶ったんです。市から委託されて、母子寡婦福祉会で運営しています。中学生を対象に毎週1回、サポーターとして大学生や地域の方々に来てくれています。何をする時にも、ひとり一人と会ってお話しすることを大切にしています。会えば色々なことを聴けるからです。日頃の思いを伝え合う中で、人とのつながりが深まると思っています。

# 輪をデザインする

むしゃ たえこ  
武舎 妙子さん

【プロフィール】七宝小学校、七宝中学校、名古屋市立工芸高校インテリア科卒。インテリア・設計の会社を経営。在宅で仕事をするスタイルで子育てママとワークシェア。祭りやイベントのポスター制作依頼も多く、あま市内で作品と出会えることも。あま市母子寡婦福祉会でも活動。

撮影場所／あま市伊福地区  
市民記者／後藤和子、新谷歩、成田由美子

### 市民記者のヒトコト

お節介で優しい、お祭りが好きな方。聴きたいこと書きたいことがありすぎました！



元気の  
ワンポイント

できることをできる人がやる。でも成長のチャンスは逃さない

# 未来への思いをカタチに

かとう みな  
加藤 美奈さん

## よりよい社会へ

私は、ComodoLABO( コモドラボ )という会社を経営しています。快適で持続可能な社会を実現したい。そんな思いで、企業様と一緒に、地域貢献の活動や環境への取組、学習の場づくりをしています。例えば、捨ててしまうペットボトルで、ポーチを作る子ども向けのワークショップをしたり、環境について楽しく学んでもらう企画をしています。多くの人に社会問題を知ってもらって、身近な物への意識が変わるきっかけをつくれるように、日々考えています。

## 起業のきっかけ

もともとファッションに興味があって、服飾に関わる仕事をしていました。ある時、昔なじみの人に言われたんです。「ファッション=服ではない」って。服やインテリアだけでなく、これからは自分の周りの社会をどうするか考えるのもファッションだ。そんな考え方に興味を持ったのが、今の仕事を始めるきっかけでした。企業様と一緒に、社会問題に向かっていくのも、大きな意味で自分のファッションを考えることだと思えます。

## 子育てと仕事の両立

仕事に一所懸命ですが、主婦であり一児の母でもあります。私のモットーは、子育てと仕事を無理のないように両立すること。子どもと一緒にいられる時はしっかり向き合うようにしています。子どもたちの未来への思いをカタチにしたい。そのために挑戦していこうという気持ちは、私を動かす大きな理由になっています。

【プロフィール】株式会社 ComodoLABO 代表。服飾会社で勤務しながら、名古屋モード学園ファッションデザイン学科で学ぶ。デザイナー職などを経て2015年に独立。

撮影場所/あま市七宝焼アートヴィレッジ  
市民記者/美和高校 大塚智陽、梶花帆、野澤愛未

### 市民記者のヒトコト

男性が多く働く社会の中で、働く女性にインタビューをして、女性の強さを感じました。



元気の  
ワンポイント

行動力を活かし、挑戦する事で成功につなげていく